

令和元年度事業報告

1. 事業の実施に係る事項

1) 富士山に残されている天然林を保全、活用する事業

《事業》植生保護柵の点検、周辺部の食害調査

《目的》国有林に設置した植生保護柵の点検、修復、植生復元状況調査など

《実施日》4/29・5/7・5/9・11/15

《内容》破損等の点検、ステーの交換、倒木除去

周辺地域の食害状況の目視調査、写真撮影による記録

次年度の柵修復のための現地調査・静岡森林管理署と協働

《事業》センサーカメラによる動物調査

《目的》動物の生息調査およびニホンジカの活動を通年調査

《実施日》4/29・5/7・10/20

《内容》センサーカメラ点検・電池/メモリ交換・回収・設置

《事業》樹皮防護ネット設置

《目的》ニホンジカの食害対策として、母樹となる樹木の立ち枯れを防ぐ

《実施日》8/3

《内容》須山口周辺の国有林でナツツバキなどに設置 御殿場小山ボーイスカウトと協働 (28名)

《事業》植生保護柵の植生調査

《目的》植生防護柵の効果を検証

《実施日》9/2・10/7

《内容》南山林道に設置した植生保護柵の毎木調査、植生調査 常葉大学と協働 (10名)

旧須山口周辺に設置した植生保護柵内外の実生調査 (6名)

《事業》蜘蛛の生息調査

《目的》植生防護柵の効果を検証

《実施日》9/14

《内容》調査者・日本クモ学会・久保田克哉氏 (他2名)

旧須山口周辺に設置した植生保護柵内外の蜘蛛の生息状況を調査

《事業》国有林東白塚低山帯植物群落保護林への植生保護柵設置

《目的》森林の植生を保護

《実施日・内容》

4/19 設置位置の確認

10/16 資材運搬ルートおよび運搬方法の確認 ナラ枯れ調査 (2名)

11/4 静岡森林管理署、常葉大学生、ボーイスカウトと協働で設置 (26名)

2) 富士山の森林で過去に失われた生物多様性を復元し、水源涵養力を保全するための事業

《事業》 土壌水分量調査

《目的》 植生とニホンジカによる食害の影響について林床の状態を探る

《実施日》 5/9

《内容》 御殿場市区域の国有林の土壌採取と分析

《事業》 国有林の富士山クラブ西白塚ウラジロモミ人工林の混交林化計画
NPO法人富士山クラブと協働で実施

《目的》 人工林を天然林に復元するための実験

《実施日》 10/16・11/1

《内容》 現地状況確認・コドラートによる植生調査(第2回)
調査報告「ウラジロモミ人工林の混交林化計画 2019」を作成

3) 地域の環境教育に富士山の自然環境を活用する事業

《事業》 環境教育フィールドの整備

《目的》 水ヶ塚～東白塚遊歩道の再開

《実施日》 4/19・5/19

《内容》 旧遊歩道のルート調査・ルート測量を実施 (裾野市 静岡森林管理署と協働)

《事業》 パネル展示

《目的》 森林保全活動の重要性と意義の啓発

《実施日》 6/1(ecoまつり) 6/14～(玉穂ふれあい文化展) 8/20～(ふらっと展・ふじざくら)
10/27(元気わくわくごてんばフェスタ2017)

《内容》 「御殿場口の自然環境と課題」をテーマのパネルを展示

《事業》 イベント「親子で学ぼう! 富士山の自然」

《目的》 富士山の自然環境についての啓発

《実施日》 7/7

《内容》 御殿場市民活動支援センター主催のイベントを全面担当
スライド解説、パネル展示、クイズ、クラフトづくりを実施 (50名以上)

《事業》 常葉大学森林学習 1)と同時に実施

《目的》 森林についての理解を深める

《実施日》 9/2

《内容》 常葉大学生を対象に森林学習を実施 (10名)

4) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

《事業》御殿場口雪代堆積地の生物多様性保全
《目的》御殿場口の自然環境保全・帰化植物・侵入植物の駆除
《実施日》4/28 8/29
《内容》外来種のアシタバを中心に侵入種駆除を実施 (17名)

《事業》講演会
《目的》演題「富士山・自然環境と現状」
《実施日》5/18 (於：玉穂報徳会館)
《内容》玉穂婦人会の勉強会として講師を担当 (横山 勝又)

《事業》講演会
《目的》演題「国有林の現状」
《実施日》6/2 (於：御殿場市民交流センターふじざくら)
《内容》講師・静岡森林管理署 山本義久氏

《事業》富士山国有林の環境調査
《目的》森林の変化を比較
《実施日》5/21
《内容》二合目林道沿いの国有林で11年前の調査ルートを辿り同様の調査を実施 (8名)

《事業》冊子発行
《内容》富士山自然保護活動の概要平成30年版(5月)
富士山学習シリーズ(1) 須走口標高2,000mの草原と森林(7月)
富士山御殿場口の自然環境と課題 2020年改訂版(2月)

※ 活動の中で作成した冊子・報告書はホームページで公開している。

2. 総括

冊子の発行、新聞報道、ホームページ、パネル展示、講演などを通じて富士山の自然環境についての理解が深まり、とくに深刻な状況にある御殿場口の侵入植物についての認識を広げることができた。